

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000082		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北海ハウスみずほ館		
所在地	江別市あけぼの町51番地13		
自己評価作成日	平成25年7月1日	評価結果市町村受理日	平成25年8月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000082-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北海ケアサービス(株)の理念である「笑顔で、明るく、優しく」を基本としており、北海ハウスみずほ館のケア目標「私たちは地域とのふれあいを大切に、自らの技術や知識を過信せず、気づきの援助をおこない事故防止に努めます」を目指し支援している。常に個別ケア、尊厳をもって関わるように意識し、入居者が笑顔で穏やかな表情で日々過ごすことが出来、外出から戻るとホットする家庭的な雰囲気ホームです。食事は和食中心の献立で国産の新鮮な食材を使い皆さん安心して召し上がることが出来る。看護師が常勤でいるので日々の入居者の健康管理、緊急時の対応も医療機関と密に連携がとれる体制である。季節に応じた行事、多種のボランティア、他の施設、自治体等の交流で入居者に楽しんでいただいている。又天気の良い日は散歩、外出の機会も多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム北海ハウスみずほ館」は、近隣に公園や幼稚園、ケアハウスや特別養護老人ホームなどがある、自然豊かな広々とした地域に位置している。ケアハウスの夏祭りに参加したり、幼稚園児との交流なども積極的に行われている。ホーム長は、今までの介護施設の運営に携わった経験を活かして「北海ハウスみずほ館」の立ち上げから関わり、各利用者が笑顔で穏やかに過ごせるように、在宅を意識した個別ケアに日々職員と共に取り組んでいる。また、殆どの職員が実践者研修を受講するなど、職員の資質向上を目指しながら、内外の研修の充実を図っている。法人の理念を基に、毎年職員間でケア目標を決めて日々再確認しており、理念とケア目標は職員間で共有化されている。前回の外部評価後には、家族との信頼関係の構築という自己評価項目を課題に掲げるなど、向上心を持って積極的に取り組んでいる。職員は、2ユニットを一つの家族と考えると両ユニットを兼任して勤務し、全利用者の状況を把握して適切なケアに取り組んでいる。マニュアルや各種書類も整備され、分かりやすい記録が行われている。夜勤後の職員が同行して毎朝散歩に出かけたり、食材や彩りなどに配慮しながら季節感のある食事を提供するなど、家庭的で細やかなケアが行われているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(1Fばらアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の他に、独自のケア目標を作成し、「私達は地域とのふれあいを大切にし自らの技術や知識を過信せず気づきの援助をおこない事故防止に努めます」を目指し、毎日の朝礼で理念を言葉にし、職員全員が目標を共有し実行するよう努めている。	法人の理念を基に、毎年地域密着型サービスの意義を踏まえたケア目標を全職員で作成してパンフレットに記載し、事業所内要所に掲示している。会議などで事例に沿って振り返ると共に、朝の申し送り時に職員が交代で唱え、全員で共有して実践できるように日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会でのゴミ拾いに入居者と参加している。今年の防災訓練や夜間検証では、自治会の方に参加を頂き実施することができた。また地域のボランティアさんに毎月来て頂き、継続的な交流が図られている。	自治会の新年会に利用者と一緒に参加したり、近隣のケアハウスの夏祭りに出かけている。幼稚園児が七夕に来訪したり、公園で交流する機会もある。今後は、事業所の行事に近隣住民を招待するなど、更なる交流の機会を作って行く意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の殆どが認知症に対する研修に参加し、理解を深めている。家族の方が来訪された際には、日常生活状況を伝えているほか、病状や今後についての相談業務も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの現状を報告するほか、家族からの要望や希望も出来る限り取り入れている。今年には家族の協力を得てアンケートを実施し、様々な意見を真摯に受け止め、サービス向上に活かしている。	家族代表や消防署員なども参加して、2か月毎に開催し、災害対策や外部評価結果報告、認知症講習会などの研修報告も行われている。簡潔にまとめられた議事録を全家族に送付しているが、質疑応答などの記録は不十分さも感じられる。	テーマを設定して全家族に会議案内を送付して事前に意見を聞き取るなど、参加できない家族の意見も会議に活かされるような工夫を期待したい。また、質疑応答など、会議内容が更に解るような議事録の工夫も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市から福祉関係で協力の要請があれば、場所の提供を行っている。書類等、市への提出物は速やかに行き、ホームでの実情を伝え連携を図っている。	ホーム長は、書類の提出などで市役所を訪問した時に、担当者と話をする機会を作り連携を深めている。日頃から、電話やメールなどで連絡を取ると共に、相談事があれば必ず訪問して課題を解決している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解したうえで、危険性がある状況と判断した場合、家族や入居者の意見も取り入れ、ある一定の期間や時間のみ玄関の施錠を含めて行うこともありえる。	外部研修後に、報告研修を兼ねた事例検討などの内部研修を年数回行っている。「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」項目についても、内部研修の機会に再確認して全職員で理解を深めている。気になる言葉使いがあれば、リーダーやホーム長がその都度注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加し、職員会議で全職員へ報告、どのような行為が虐待になるのか把握し防止に努めている。また、虐待の新聞記事を取り上げ、ホーム内で情報を共有し、同様の事が起きないように心掛けている。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会への参加のほか、市内のグループホームの職員が集まり市民向けに行った講演会では、成年後見制度について取り上げ講師を招く等、職員も学びの場を持つことが出来た。状況に応じて活かせるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の理解は、入居者が理解するのは難しいが、家族等には理解が得られるように説明を行い、不安や疑問点に答えられるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や運営推進会議等で意見や要望を出して頂くようにしている。家族にはアンケートも取り、書面で回答を頂きそれを運営に反映させている。	家族の来訪時に、職員が利用者の様子を報告したり、ホーム長が本人の現状を伝える事で、家族からは率直な意見や要望を言って貰える関係が構築されている。家族の意見や要望は、支援経過記録などに個別に記録している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回 4時間の会議を設けており、職員から事前に提出された意見や提案をその場で話し合っている。	ホーム長は、職員と日頃から話をしたり、年間数回個別面談を行っている。会議では、全職員が発言する機会を作るなど、各職員の意見や提案を運営に活かせるように取り組んでいる。職員は、全員で役割を分担しながら運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの努力や実績を把握し、勤務時間等は希望条件を聞き、向上心を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・講演会に、職員は積極的に参加している。受講した職員は会議で報告している。又外部より講師を招く研修もおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム管理者が集まり、意見交換の場を設けている。Eネットに加入もしている。毎年市内のグループホームが共同でグループホーム交流会、講演会も開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の尊厳を守り、身につけている生活習慣を尊重し、共感できる雰囲気を作りながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	充実した日々を過ごせるよう支援するために、不安なことや要望などあらゆることについて家族と話し合い信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者や家族がどのようなサービスを望んでいるのか把握し、サービス内容を検討、入居者の意思を尊重しながらサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で、入居者のできることを見つけ、一緒に行えるように支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連携をとり、すぐに連絡をとれる体制をとっている。家族が来訪された時には、職員から日常の様子を伝え、入居者の状態を理解して頂くことで今まで通りの関係が保たれるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方たちが、周りを気にせずいつでも来訪できる、入居者と過ごせる環境づくりに努めている。馴染みの人や場所が継続して保たれるよう、家族等の協力を得ながら確立している。	友人や知人、馴染みの美容師などが来訪する利用者もあり、居室などでゆっくり過ごせるように配慮し、帰宅時には再び来訪してもらえるように声かけを行っている。本人の希望で、受診の帰りなどに家族の了解の下、自宅に立ち寄る事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、同テーブルにしないなど、食事時の席に配慮している。リビングでお茶を飲んだり、おやつを食べたり、アクティビティを行う際スタッフが間に入り楽しく過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や本人から連絡があった場合、相談にのったり、必要な助言をする等適切な対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室に仏壇・冷蔵庫・家具・飾り物等を置く、タバコを吸う方は喫煙所で吸う、足浴を希望時行う等可能な限り希望に添えるようにしている。	日々のケアの中で得られた思いや意向、変化を個別日誌に記入し、年1回基本情報シートを更新している。言葉での意思疎通が難しい場合は、表情や仕草などから思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家庭での生活、他ホームでの生活歴を家族等に伺い参考にしている。入居者との関わりや会話で何を望んでいるのか把握し、生活の中に取り入れる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームでの一日の生活の流れを把握し、入居者が望む事を可能な限り取り入れ、よく話を聞く事で心の安定を図っている。体操、散歩、季節のレクリエーション等を行い本人に合った体力低下の防止を行う。栄養が偏らないよう配慮し健康の維持向上を図っていく。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新規、更新ケアプランについて、月に1回職員全員でモニタリングを行う。情報収集により入居者、家族の意向も含め介護計画書に反映する。	新規利用者は、日々の様子をアセスメントシートに記録して状況を把握し、利用開始1か月後に介護計画を見直している。介護計画と連動したケアや今後の課題を色分けして個別日誌に日々記録し、3か月毎の介護計画の見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の訴え、健康、体調の変化、ケアプランに添ったケアの実践の記録を確実にし、職員間で情報を共有している。ケアプラン実行の記録と、今後のプランに載せる項目にはマーカーをひき、読みやすい記録を心掛け、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、買い物、最近では施設に入所している夫に会いたい等、家族が同行できない場合は職員が対応している。また、馴染みの美容院への送迎を行い、状況に応じた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者と自治会の新年会、清掃に参加、自治会の方も交えての防災訓練、救命講習、近隣幼稚園との交流、ボランティアの方の来訪等、安全で楽しく生活出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族が希望する医療機関受診の継続が出来るように対応している。また、提携医院による24時間対応、月2回の訪問診療、必要に応じての訪問歯科等の連携体制を整えている。	本人と家族の意向を確認して、医療機関を決めている。24時間対応の提携医療機関に変更する場合は、医師から家族に説明をもらい、納得を得たうえで受診先を変更している。受診支援は殆ど事業所で行い、医師と連携を深めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者の様子がいつもと違うなど気付いた時点ですぐに看護師に伝え対処して受診が必要な場合は速やかに提携の医療機関へ連絡をとり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時、職員が同行し状態、情報を伝え、情報提供書を作成し渡す。退院時は家族、主治医、看護師、当ホームの担当者間で担当者会議を行い情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のありかたについて事前に主治医を交え説明、家族と話し合い、納得して頂いたうえで同意書を頂いている。カンファレンス等で今後の方針を共有し病院の協力を得て看取りもやっている。	利用開始時に、「重度化した場合の対応指針」を説明し、本人や家族の意向に応じて、主治医の判断の下看取りを実施している。体調の変化に応じて、具体的な医療対応について家族の意向を確認する書類を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救命講習を行い、救急車が到着するまでの時間の心肺蘇生法やAEDの使用、異物除去等の応急手当の仕方を学び、入居者の急変時に対応出来るように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行い、夜間訓練、初期消火訓練、通報、伝達訓練、出火場所を変えて避難誘導や避難場所、通路の確認等を自治会の方の参加を頂き行っている。	自治会と災害時の連絡体制を整え、避難訓練にも自治会役員が参加している。開設以来、昼夜の火災想定での避難訓練を主に実施しており、今後は、火災以外の災害についても職員間で対応を確認して行く意向である。	地震や水害などの災害を想定し、ケアの状況に応じた適切な対応について、全職員で再確認する機会が持てるように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、誇りを持ってその人らしい生活が送れるように支援している。またプライバシーにも配慮し、個々のペースに合わせた言葉かけや対応をしている。	接遇を学び、言葉がけでは声のトーンや語尾に注意し丁寧に対応している。居間で利用者を見守りながら記録を書いているが、席を立つ時は片づけるなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意志を尊重し、色々な事柄を自ら決定出来るように支援している。こちらの意見を押し付けることなく、最終的には希望が表れる会話の流れを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが何に興味を持っているのか、何をしたいのかを会話の中から見つけ出し、一日の中で寄り添い、共に行動する時間を作り、共有できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて、カット、パーマ、毛染め、顔剃りといったことを定期的に支援している。また、入居者の行きつけの美容室へ行く、入居者と買い物に行く、家族に必要な物を依頼する等、協力を得ている。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の献立で人気のある献立を取り入れたり、季節感のある旬の食材を使用して調理を行っている。入居者と職員と一緒に食事の準備や片付けを一人ひとりに合わせながら支援している。	赤飯と弁当の日を月に2回ずつ献立に取り入れ、利用者は心待ちにしている。誕生日には好みの料理を作り、個人の嗜好にも配慮している。国産の食材を使い健康に留意し、食卓に彩りを添えて目でも楽しめる豊かな食生活を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態に合わせたバランスや食事量を工夫しながら提供している。また水分量についても、身体状況や病状を考慮しながら、脱水にならないように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内の生活保持のため口腔ケアの声掛けや促し介助を行い、場合によっては訪問歯科の診療を定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、一人ひとりの排泄パターンを把握出来るようにしている。また、定期的にカンファレンスを開き、パットやおむつの使用状況を話し合い、不必要であれば使用を中止している。	排泄チェック表を基に、プライバシーに配慮して声かけや誘導を行っている。昼夜ともトイレでの排泄を目標に職員間で課題を検討し、ケアの統一を図り自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の促しとして入居者には、毎朝の乳製品、水分補給、運動、ゴボウ茶や食物繊維の多い食事を提供する等、一人ひとりに合わせた対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する時間は、入居者に確認を取り、希望に添えるように努めている。また、入浴剤を使用し、ゆっくり個々のペースで楽しめるようにしている。	毎日午後の時間帯に、利用者の希望を聞いて最低週2回の入浴を支援している。入浴を嫌がる利用者には無理強いをしないで、言葉がけの工夫や職員を交代して週1回以上は入ってもらっている。希望に沿ってシャワー浴や寝る前の足浴も行い、年に2回は全員で温泉に出かけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が良く眠れるように、室内の温度や照明の明るさに注意している。眠ることが出来ない入居者には、話し相手になるなど、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が個別日誌に添付してある薬剤情報書を常に見ることで理解出来るようにしている。日々体調を観察し、病状の変化には看護師や医師に相談する等対応をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常のコミュニケーションの中で、入居者が楽しく行える役割や興味のある事を見つけ、ケアに取り入れている。毎月それぞれの方の誕生日会を行い、昼食のメニューに希望食を提供するなどの意向を汲んでいる。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調を考慮しながら、出来る限り希望に添えるように努めている。外出行事も、同じところばかりではなく、入居者が楽しめる場所を企画し、家族と一緒に参加出来るようにしている。また地域の催事にも参加している。	夜勤後の職員が毎朝同行して、全員の利用者が交代で1時間ほど公園や周囲を散歩している。季節に応じた外出行事の他、ドライブ、買い物、外出に出かける機会も多く、可能な限り、希望に沿って支援している。冬季には、神社参拝や買い物などの個別支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は、買い物等に共に外出し見守りを行っている。出来ない方はホームで預かり、本人の希望の物を買えるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や家族との連絡等は、希望に応じて電話を掛けたり、掛けていただいたり、さらには面会をお願いする、時には家族に手紙を書くことの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除や温度管理をこまめに行い、居心地良く生活出来るよう努めている。季節に合わせた装飾をし、季節感を取り入れている。	玄関には季節の花が飾られ、来訪者を温かく迎える家庭的な雰囲気になっている。白を基調にした共用空間は明るく清潔感があり、居間や居室の窓からは広い草原やパークゴルフ場が見渡せる。各ユニットの壁には、利用者の写真を入れた団扇の作品などを品よく飾り、落ち着いた居心地のよい環境を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間という共有空間の中でも、一人ひとりの席が決まっているので、独りになりたい時はそこに座り、他の方と近くで過ごしたい時は3人用のソファに座り、自由に選べるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅から使い慣れた物を持参し、配置も本人と家族の希望を考慮している。家族からの情報を得て、居心地が良くなるよう工夫している。	各居室に冷蔵庫、仏壇、馴染みの家具や小物類を持ち込んでいる。利用者・家族と話し合い、お孫さんの写真、絵画、利用者の作品などを活かした飾り付けなど、個性的な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の「できること」をカンファレンスで常に検討し、ホーム内はバリアフリーと手摺りで安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000082		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北海ハウスみずほ館		
所在地	江別市あけぼの町51番地13		
自己評価作成日	平成25年7月1日	評価結果市町村受理日	平成25年8月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F ばら ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000082-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年7月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2Fよりアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の他に、独自のケア目標を作成し、「私達は地域とのふれあいを大切にし自らの技術や知識を過信せず気づきの援助をおこない事故防止に努めます」を目指し、毎日の朝礼で理念を言葉にし、職員全員が目標を共有し実行するよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会でのゴミ拾いに入居者と参加している。今年の防災訓練や夜間検証では、自治会の方に参加を頂き実施することができた。また地域のボランティアさんに毎月来て頂き、継続的な交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の殆どが認知症に対する研修に参加し、理解を深めている。家族の方が来訪された際には、日常生活状況を伝えているほか、病状や今後についての相談業務も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの現状を報告するほか、家族からの要望や希望も出来る限り取り入れている。今年は家族の協力を得てアンケートを実施し、様々な意見を真摯に受け止め、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市から福祉関係で協力の要請があれば、場所の提供を行っている。書類等、市への提出物は速やかに行い、ホームでの実情を伝え連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解したうえで、危険性がある状況と判断した場合、家族や入居者の意見も取り入れ、ある一定の期間や時間のみ玄関の施錠を含めて行うこともありえる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加し、職員会議で全職員へ報告、どのような行為が虐待になるのか把握し防止に努めている。また、虐待の新聞記事を取り上げ、ホーム内で情報を共有し、同様の事が起きないように心掛けている。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会への参加のほか、市内のグループホームの職員が集まり市民向けに行った講演会では、成年後見制度について取り上げ講師を招く等、職員も学びの場を持つことが出来た。状況に応じて活かせるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の理解は、入居者が理解するのは難しいが、家族等には理解が得られるように説明を行い、不安や疑問点に答えられるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や運営推進会議等で意見や要望を出して頂くようにしている。家族にはアンケートも取り、書面で回答を頂きそれを運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回 4時間の会議を設けており、職員から事前に提出された意見や提案をその場で話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの努力や実績を把握し、勤務時間等は希望条件を聞き、向上心を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・講演会に、職員は積極的に参加している。受講した職員は会議で報告している。又外部より講師を招く研修もおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム管理者が集まり、意見交換の場を設けている。Eネットに加入もしている。毎年市内のグループホームが共同でグループホーム交流会、講演会も開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の尊厳を守り、身につけている生活習慣を尊重し、共感できる雰囲気を作りながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	充実した日々を過ごせるよう支援するために、不安なことや要望などあらゆることについて家族と話し合い信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者や家族がどのようなサービスを望んでいるのか把握し、サービス内容を検討、入居者の意思を尊重しながらサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で、入居者のできることを見つけ、一緒に行えるように支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連携をとり、すぐに連絡をとれる体制をとっている。家族が来訪された時には、職員から日常の様子を伝え、入居者の状態を理解して頂くことで今まで通りの関係が保たれるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方たちが、周りを気にせずいつでも来訪できる、入居者と過ごせる環境づくりに努めている。馴染みの人や場所が継続して保たれるよう、家族等の協力を得ながら確立している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、同テーブルにしないなど、食事時の席に配慮している。リビングでお茶を飲んだり、おやつを食べたり、アクティビティを行う際スタッフが間に入り楽しく過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や本人から連絡があった場合、相談にのったり、必要な助言をする等適切な対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室に仏壇・冷蔵庫・家具・飾り物等を置く、タバコを吸う方は喫煙所で吸う、足浴を希望時行う等可能な限り希望に添えるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家庭での生活、他ホームでの生活歴を家族等に伺い参考にしている。入居者との関わりや会話で何を望んでいるのか把握し、生活の中に取り入れる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームでの一日の生活の流れを把握し、入居者が望む事を可能な限り取り入れ、よく話を聞く事で心の安定を図っている。体操、散歩、季節のレクリエーション等を行い本人に合った体力低下の防止を行う。栄養が偏らないよう配慮し健康の維持向上を図っていく。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新規、更新ケアプランについて、月に1回職員全員でモニタリングを行う。情報収集により入居者、家族の意向も含め介護計画書に反映する。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の訴え、健康、体調の変化、ケアプランに添ったケアの実践の記録を確実にを行い、職員間で情報を共有している。ケアプラン実行の記録と、今後のプランに載せる項目にはマーカーをひき、読みやすい記録を心掛け、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、買い物、最近では施設に入所している夫に会いたい等、家族が同行できない場合は職員が対応している。また、馴染みの美容院への送迎を行い、状況に応じた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者と自治会の新年会、清掃に参加、自治会の方も交えての防災訓練、救命講習、近隣幼稚園との交流、ボランティアの方の来訪等、安全で楽しく生活出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族が希望する医療機関受診の継続が出来るように対応している。また、提携医院による24時間対応、月2回の訪問診療、必要に応じての訪問歯科等の連携体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者の様子がいつもと違うなど気付いた時点ですぐに看護師に伝え対処して受診が必要な場合は速やかに提携の医療機関へ連絡をとり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時、職員が同行し状態、情報を伝え、情報提供書を作成し渡す。退院時は家族、主治医、看護師、当ホームの担当者間で担当者会議を行い情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のありかたについて事前に主治医を交え説明、家族と話し合い、納得して頂いたうえで同意書を頂いている。カンファレンス等で今後の方針を共有し病院の協力を得て看取りも行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救命講習を行い、救急車が到着するまでの時間の心肺蘇生法やAEDの使用、異物除去等の応急手当の仕方を学び、入居者の急変時に対応出来るように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行い、夜間訓練、初期消火訓練、通報、伝達訓練、出火場所を変えて避難誘導や避難場所、通路の確認等を自治会の方の参加を頂き行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、誇りを持ってその人らしい生活が送れるように支援している。またプライバシーにも配慮し、個々のペースに合わせた言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意志を尊重し、色々な事柄を自ら決定出来るように支援している。こちらの意見を押し付けることなく、最終的には希望が表れる会話の流れを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが何に興味を持っているのか、何をしたいのかを会話の中から見つけ出し、一日の中で寄り添い、共に行動する時間を作り、共有できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて、カット、パーマ、毛染め、顔剃りとといったことを定期的に支援している。また、入居者の行きつけの美容室へ行く、入居者と買い物に行く、家族に必要な物を依頼する等、協力を得ている。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の献立で人気のある献立を取り入れたり、季節感のある旬の食材を使用して調理を行っている。入居者と職員と一緒に食事の準備や片付けを一人ひとりに合わせながら支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態に合わせたバランスや食事量を工夫しながら提供している。また水分量についても、身体状況や病状を考慮しながら、脱水にならないように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内の生活保持のため口腔ケアの声掛けや促し介助を行い、場合によっては訪問歯科の診療を定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、一人ひとりの排泄パターンを把握出来るようにしている。また、定期的にカンファレンスを開き、パットやおむつの使用状況を話し合い、不必要であれば使用を中止している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の促しとして入居者には、毎朝の乳製品、水分補給、運動、ゴボウ茶や食物繊維の多い食事を提供する等、一人ひとりに合わせた対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する時間は、入居者に確認を取り、希望に添えるように努めている。また、入浴剤を使用し、ゆっくり個々のペースで楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が良く眠れるように、室内の温度や照明の明るさに注意している。眠ることが出来ない入居者には、話し相手になるなど、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が個別日誌に添付してある薬剤情報書を常に見ることで理解出来るようにしている。日々体調を観察し、病状の変化には看護師や医師に相談する等対応をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常のコミュニケーションの中で、入居者が楽しく行える役割や興味のある事を見つけ、ケアに取り入れている。毎月それぞれの方の誕生日会を行い、昼食のメニューに希望食を提供するなどの意向を汲んでいる。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調を考慮しながら、出来る限り希望に添えるように努めている。外出行事も、同じところばかりではなく、入居者が楽しめる場所を企画し、家族と一緒に参加出来るようにしている。また地域の催事にも参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は、買い物等に共に外出し見守りを行っている。出来ない方はホームで預かり、本人の希望の物を買えるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や家族との連絡等は、希望に応じて電話を掛けたり、掛けていただいたり、さらには面会をお願いする、時には家族に手紙を書くことの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除や温度管理をこまめに行い、居心地良く生活出来るよう努めている。季節に合わせた装飾をし、季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間という共有空間の中でも、一人ひとりの席が決まっているので、独りになりたい時はそこに座り、他の方と近くで過ごしたい時は3人用のソファに座り、自由に選べるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅から使い慣れた物を持参し、配置も本人と家族の希望を考慮している。家族からの情報を得て、居心地が良くなるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の「できること」をカンファレンスで常に検討し、ホーム内はバリアフリーと手摺りで安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 北海ハウスみずほ館

作成日：平成 25年 8月 14日

市町村受理日：平成 25年 8月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	日々、個々の人格を尊重し、本人のペースに合わせた言葉かけ対応を意識して関わっているが、時に馴染みの関係が馴れ合いになることがある。	常に入居者の人格の尊重、プライバシーに配慮しその人らしい生活が過ごせるように意識する。	その人、その場に応じた言葉使い、トーン、語尾の優しさ丁寧さを常に意識するため、接遇研修等を取り入れ職員全員が身につける。	12ヶ月
2	27	個別日誌記録の結果は記入されているが、どうしてそうなったかの過程の記入が少ない。	出来ること、出来ないこと、新しい発見、様々の状況に対応した記録を詳細に記入し介護計画に活かす。	気づいたこと、気になったこと、良かったこと等記録に記入する。すぐ記入できない状況の時は、自分のメモに要点を簡単に書き、必ずその日のうちに書く。	12ヶ月
3	35	災害対策として火災訓練は年2回、消防署・自治会の方の参加、連携をとり実行している。火災以外の災害について職員間で対応を確認する必要がある。	地震・水害などの災害マニュアルはあるが、具体的に想定し、全職員で確認する。	食事・排泄・入浴・外出・行事等の状況に応じた適切なケア対応を再確認する機会を設ける。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。